

地震の二次被害に備えましょう

消火のチャンスは3回

1 ゆれを感じたとき

最初の衝撃がそれほど強くなければ、すかさず火を消します。日ごろから小さなゆれでも火を消す習慣をつけます。

2 ゆれがおさまったとき

強いゆれの最中に火元に近づくのはかえって危険です。ゆれがおさまるのを待って火を消します。

3 出火したとき

出火してから3分間勝負です。小さな出火でも大声で近所に助けを求め、119番通報もします。消火器や水だけでなく、毛布でおおうなど手近なものをフル活用します。ただし、天井に火が移ったらいさぎよく避難します。燃えている部屋のドアや窓はできるだけ閉めて空気を遮断します。

消火器の使い方

①安全ピンに指をかけ、上に引き抜く



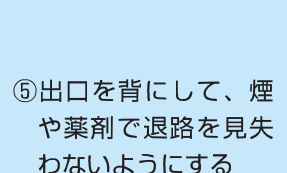
②ホースをはずして火元に向ける



③レバーを強くにぎって噴射する



④左右にほうきでかくようにする



⑤出口を背にして、煙や薬剤で退路を見失わないようにする

火元別初期消火の方法

油なべ

- あわてて水をかけない
- 毛布や大きめのタオルをぬらして火の手前からかぶせて空気を遮断する
- マヨネーズ投入は禁止



石油ストーブ

- 真上から一気に水をかける
- 灯油がこぼれて広がっていたら毛布などでおおってから水をかける



衣類

- 転げ回る
- 髪の毛の場合は頭からタオルや衣類をかぶる(化学繊維はさける)

風呂場

- いきなり戸を開けると火の勢いが強くなることもあり危険
- ガスの元栓を閉め、戸を徐々に開けて、一気に消火する

電化製品

- まずコンセントを抜いて感電を防止してから消火する



カーテン・ふすま

- 天井に燃え移らせないために、カーテンは引きちぎり、ふすまはけり倒してから消火する



火災からの避難のポイント

- 天井に火が移ったら初期消火の限界、すぐに避難
- 災害時要援護者を優先
- 服装、持ち物にこだわらずできるだけ早く避難
- ちゅうちょは禁物、火の中は一気に走りぬける
- 煙に巻かれないように姿勢は低く

- いったん逃げ出したら中には戻らない
- 逃げ遅れた人がいるときは近くの消防隊員に知らせる



地震保険について：地震による火災被害（延焼を含む）は、火災保険では保険金が支払われません。地震保険は火災保険に付け加える契約ですので、契約している保険会社に確認しましょう。